

第2回 豊岡市公営企業審議会 議事録（要旨）

開催日時 2021年4月26日（月） 13時15分から15時10分まで
開催場所 市役所本庁舎 大会議室
出席した委員 山口会長、坂本副会長、作花委員、勾田委員、宮下委員、
米田委員
欠席した委員 井垣委員、都築委員、長坂委員、長田委員
事務局 河本上下水道部長
水道課 谷垣課長、和田参事兼課長補佐、西田水道経理係長
下水道課 榎本課長、堀田参事兼施設係長、松岡課長補佐、
山本下水道経理係長
傍聴者 3名
司会進行 事務局、会長

1 開 会（13時15分）

2 会長あいさつ

3 副市長あいさつ

4 諮問

市長（代理：前野副市長）から会長（代理：坂本副会長）へ「今後の水道料金・下水道使用料のあり方について」諮問。

5 議事録署名委員指名

会長から委員名簿順に従い、作花委員と勾田委員を指名。

6 議 事

- (1) 今後の水道料金・下水道使用料のあり方について《料金等改定の検討》
水道課から「上下水道事業会計のしくみ」について、資料に基づき説明。
（質疑）

委 員：資料14頁の減価償却費と長期前受金戻入のイメージについて、黄色の矢印（将来の更新に備え、本来、内部留保すべき部分）から緑色の矢印（実際に内部留保された部分）を差し引いた赤色の矢印（将来の更新時に資金が不足）の部分が、この5年間の料金改定で見るべき部分ということではないのか。

事務局：このイメージ図については、分かりにくい減価償却費と長期前受金戻入という、現金が出入りしない収入や支出の関係性を説明するために作成したものであり、このことにより料金改定が必要だということではない。料金改定が必要だという計算は、算定方式の方で別途計算することになる。

水道課から「料金等の算定方式」について、資料に基づき説明。

(質疑)

なし。

水道課から「豊岡市の水道料金・下水道使用料の現状」及び「収支見通し（水道事業）」について、下水道課から「収支見通し（下水道事業）」について、資料に基づき説明。

(質疑)

委員：資料21頁の水道料金の体系について、一般分は使用水量が増えていくと料金の単価が上がっていくが、公衆浴場や豊岡中核工業団地、城崎町湯島財産区営浴場は、いくら使っても料金の単価が変わらないということか。

事務局：公衆浴場、豊岡中核工業団地、城崎町湯島財産区営浴場については、いくら使っても一律の料金単価となっている。また、一般用途で計算した料金との差額は一般会計から繰出金としていただいている。

委員：資料29頁の人口の将来予測について、給水人口は少子高齢化が進み、人口の減少に合わせて減っていくことは理解できる。水洗化済人口は、水洗化が進んでも、少子高齢化の影響を受けて減少していくという理解でいいのか。

事務局：その通り。水洗化を促進しても、人口減の影響を受けて、水洗化人口も減少していくという考え方である。

委員：給水人口や水洗化済人口が減少していくという前提の上で、水道事業会計と下水道事業会計の見通しが2034年まで示されているということか。

事務局：その通り。

会長：まず、資料33頁の水道事業会計の収支見通しについて、収益的収支と資本的収支が一見問題ないように推移し、2032年から△の赤い印が付いているので、その年度からは厳しいかなと見て分かるが、資料34頁では、2019年度の決算を基にお金の過不足を計算してみると、差し引き2千4百万円足りなくなっている。今後の見込みでは、料金収入が人口減少とともに減少していくが、維持管理費などの営業費用はあまり変わらない。今でさえ、全部の原価

を足したものと収益を比較すると2千4百万円足りないということが分かっているのに、今後も収益の増加が見込めないのであれば、その不足分が大きくなっていくということが分かる。資料33頁の表の裏側には今の計算があって、2019年度の決算では2千4百万円の不足があり、収益が下がることによりその不足が増加しながら積み重ねられていく状態にあるということである。最終的に明るみになるのが2030年ぐらいになるが、その時にはどうしようもないということであり、これより前にいろんなことを手を打っていかねばならず、2022年度以降、積み重なっていく不足分をどのように補てんしていくかということを考えていかないといけない。収益は増加しないが、費用は維持されるため、毎年収益が足りないという状況が水道の課題である。

委員：水道事業会計も下水道事業も維持管理費という部分で、2024年あたりが金額的に大きく変化しているが、どういった理由があるのか。

事務局：水道事業については、2024年に円山川の中にある古い施設の撤去費用を加算している。約1億5千万円。それが発生する予定である。下水道事業については、統廃合工事が終了する予定が2024年であり、その後は統合が終了して、維持管理費もその効果で減少している。

会長：下水道は、昔、合併前の市と町が、早く整備しないといけないということで、様々な省庁の補助金を使って整備した。市町合併によって複数の市町が持っている下水道を管理しないといけなくなった。これをできるだけ維持費が少なく済むよう、旧市町の繋がっていない下水道を繋げて、無くてもいい所の施設を無くして1箇所まとめて下水処理をする。このような作業をすれば、様々な場所で処理するよりも、安くつくということが分かっているので、それぞれの地域にあった処理場をポンプ場に切り替えて、費用を安くできるようにしてきた。それを限界までやっていく。豊岡市は広いので、密集して住んでる町に比べると、水道も下水道も仕掛けを作らないと、どうしようもない所があって、お金が掛かってしまう。水道課も下水道課もそれぞれ努力して維持費を下げる努力をしていただいている。その一つとして下水道の統廃合があり、2024年に一つ成果が出るという部分で維持費が下がってくるということである。水道については、豊岡市は古い時代から、水道をきちんと整備しており、そのパイプを長く使えるように長寿命化して、埋設し直すよりも安くつくような形でやり繰りして、できるだけコストが掛からないようにやっていただい

いるが、やはり維持管理として古くなればなるほど、替えないといけないうものが増えてくるので、お金が掛かる。同じ時期に造っているのに、壊れる時期も同じになってくる。一気に替えることができればいいが、そういうことができないので、計画的に少しずつ替えていく。従って、維持費というのはもうなくなるという形になってしまふ。そういう意味で、維持費を削減する、できるだけ小さくする努力はしていただいているが、ある程度の所で、毎年これぐらいは掛かるよね、という所までできてしまうのが今の状況ということである。これが下水道を造った時のように国の政策が変わって、お金を出さず、というのが出てくると、また状況は変わってくるが、今の段階では期待できないので、どうやって今後やっていくのかということを考えていかないといけない。

委員：15年ぐらい前だったと思うが、豊岡市は過疎化が進んでいるが、過疎化が見込まれる地域に対してサービスを行っていいのか、という議論があったと思う。その時に、ある地域の人だけほったらかしにする訳にはいかない、という行政側の非常に難しい立場の話聞いた記憶がある。今となつては、そこが足かせになっているのか、重荷になっているのかなあという感想を持っている。

会長：豊岡市もかなり広いので、難しい所はあると思うが、豊岡市だけできっちりやれる方法を考えていかないといけないが、皆さん一生懸命考えていただいているので、多分、何とかなるのではないかなと思っている。

委員：維持費用の削減など料金改定に当たって努力しているということを示しているのは分かるが、収入の増加の取組みとして、料金以外のことで、例えば遊休資産を活用していくなど、今後の資料の中で示していただければと思っている。駐車場の活用など、どの程度水道事業の収支の中で計上できるのかという問題はあるが、維持費とか費用の削減だけでなく、収入を増やすような取組みがあれば教えていただきたい。

事務局：収入については、経営戦略で遊休資産の活用の記載がある。料金については使ってくださいというお願いをするしかないのかなと思っているが、その他の収入については、遊休資産を多く抱えている訳でもなく、自由になる土地などない中で、数年前に水道課が保有している土地を貸してもらえないかという話はあったが、途中で話がなくなってしまい、お話しがあれば、と思うが、進んで資産を使ってくださいとなると難しいのが現状である。

- 委員：住民に説明していく時に、そういう部分もあれば出していくのがいいのかなと思う。
- 会長：なかなか上手くいかない、難しい所ではあるが、収益源があれば作っていくという考え。
- 会長：本日、水道料金と下水道使用料のあり方について諮問を受け、今後、この審議会で議論していくことになる。事務局の説明では、2022年から2026年までの5年間で今回考えないといけない期間ということになる。5年ごとにこのままの料金で大丈夫なのかということを見直していかないといけないということである。水道事業は非常に厳しい状況にあり、下水道事業は、いろいろと補助金等をもたらしているということはあるが、比較的良好な状態でいけそうであるとの見通しが立てられている。水道料金については、既にお金が足りないという状況が出来つつあるので、十分な検討が必要。下水道使用料については、次の5年間は現行の使用料で据え置きが妥当か、次回改めて提示される見通しを確認して、判断すればと思う。水道料金の方は、少し詳細な検討が必要で、継続的に審議させていただくという形で議論進めたいと思うが、皆さんよろしいか。次回、事務局から様々な決算に近い数字が出てくると思うので、それを加えた資料で下水道使用料については据置の方向で議論させていただき、水道料金についてはもう少し詳しく議論を進めていく、というような形で議論を整理させていただきたいと思う。

7 今後の予定

事務局から、資料に基づき説明。

8 閉会（15時10分）

坂本副会長あいさつ